



合衆
國內國稅年報編纂書

第一編



2995



114
A 1842
15



余等謹

大藏理事長官閣下ニ白ス曩ニ千八百七十五年

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

ル所ノ第一報告書タルヤ多クハ本寮ノ管理ニ属スル租税ノ沿革ヲ述ヘ他ニ求メテ得ヘカラサルノ要書タルヲ以テ獨リ本寮ノ官吏ノミナラス統計学ヲ考究シ或ハ統計ノ編纂ニ従事スル者ニ於テモ亦各々其一部ヲ得ント欲スル蓋シ抄シトセス然ルニ其書タル既ニ解版シテ今ヤ全文ノ得ヘキモ無シ是ヲ以テ今回往年以還ノ報告書ニ就キ其緊要ナル部分ヲ撮抄シテ之ヲ梓ニ上スルノ必要ナルニ至レリ
始メ本稿ヲ起草スルノ際ニ方テヤ他ノ緊要ナル事件ノ新タニ記入スヘキ者漸ク遂テ増加シ遂ニ前ノ十二年間ノ報告書ノ改竄補綴セサル可ヲサルノ域ニ至リシカ故ニ其勞タル豫シメ慮ル所ノ者ニ比スレハ極メテ多カリキ

大蔵省
蔵書

抑此書ヲ編纂スルノ旨趣ハ專ラ既往ノ事實ヲ詳記シ人々ヲシ
テ搜索ノ便ニ供セシムルニ在ルヲ以テ他ノ著作評閱ノ體裁ニ
倣テ漫ニ自己ノ見解ヲ付スルヲ為サス然リト雖モ此一事ヲ以
テ直ニ余等カ考案ナキヲ速クセサラン一ラ黨政スルナリ
我カ英國ノ人民ニシテ自國ノ税法ヲ了解セサル者甚ク尠シト
セス是故ニ本書ニ於テハ諸税ノ收入法ト收税官吏ノ職制トヲ
掲ケ以テ讀者ノ覽閱ニ供ス

本書ノ後卷ハ賦税ノ初年ヨリ今日ニ至ル迄毎年收入スル所ノ
稅額ヲ表示スル者ナリ

今ヤ既往ニ溯リ税法ノ沿革ヲ綫陳スルノ前ニ於テ先ク今日ノ
現狀ヲ略記セサル可ラサル者アリ

千八百七十年第三月三十一日ヲ以テ終ル一週會計年度ハ本卷
ノ史編ニ於テ最モ記念ヲ要スヘキノ年ニシテ即チ余等カ數年

未屢々建議セ
セラレタル時
結果ノ功ハ余等
余等カ行政官
賦課收入セシム
ヲ以テ曩ニ建議

今ノ會計年度ノ下約數ノ一ニ於テ是レハ今日ノ現狀ニ對シテ
ノ史編ニ於テ最モ記念ヲ要スヘキノ年ニシテ即チ余等カ數年
未屢々建議セセラレタル時結果ノ功ハ余等余等カ行政官
賦課收入セシムヲ以テ曩ニ建議

ニ非ス却テ立法院議定ノ旨趣ニ戾リ公然私利ヲ經營スルノ
ナラス多クハ無學ニシテ庶耻ヲ知ラサルノ徒ナリ故ニ本卷ニ
於テ許多ノ更算ヲ登用シテ均シク稅務ヲ擔當セシメハ一ハ以
テ政府及ヒ人民ニ對スルノ義務ヲ知ラシムルニ足ルヘハ一ハ
以テ私曲奸計ヲ未然ニ防禦スルニ足ルヘシ果シテ如斯ク
ハ僅ニ不注意ノ為メニ生スル所ノ脱税ノ額ハ實ニ尠少ナルヘ
シト綫陳シタルハ閣下ノ記憶スル所ナルヘシ

抑此書ヲ編纂スルノ旨趣ハ專ラ既往ノ事實ヲ詳記シ人々ヲシテ
テ搜索ノ便ニ供セシムルニ在ルヲ以テ他ノ著作評閱ノ體裁ニ
倣テ漫ニ自己ノ見解ヲ付スルヲ為サス然リト雖モ此一事ヲ以
テ直ニ余等カ考案ナキヲ速了セザラン一ラ冀望スルナリ
我カ英國ノ人民ニシテ自國ノ税法ヲ了解セサル者甚ク尠シト
セス是故ニ本書ニ於テハ諸税ノ收入法ト收税官吏ノ職制トヲ
掲ケ以テ讀者ノ覽閱ニ供ス

本書ノ後卷ハ賦税ノ初年ヨリ今日ニ至ル迄毎年收入スル所ノ
稅額ヲ表示スル者ナリ

今ヤ既往ニ溯リ税法ノ沿革ヲ綫陳スルノ前ニ於テ先ク今日ノ
現狀ヲ略記セサル可ラサル者アリ

千八百七十年第三月三十一日ヲ以テ終ル一週會計年度ハ本寮
ノ史編ニ於テ最モ記念ヲ要スヘキノ年ニシテ即チ余等カ數年

未屢々建議セシ所ノ「アツセスト」稅收入法改正案ヲ實際ニ施行
セラレタル時ナリ而シテ一タヒ其改正案ヲ實施スルニ及テヤ
結果ノ功ハ余等カ曾テ冀望スル所ノ者ニ勝ルニ至レリ

余等カ行政官吏ニ非サル者ヲシテ本寮ノ管理ニ屬スル租稅ヲ
賦課收入セシムルノ法ヲ廢止セラレン一ラ冀望スルヤ久矣是

ヲ以テ曩ニ建議シテ此等ノ人々ハ決シテ大蔵省ノ利益ヲ計ル
ニ非ス却テ立法院議定ノ旨趣ニ戾リ公然私利ヲ經營スルノ

ナラス多クハ無學ニシテ庶耻ヲ知ラサルノ徒ナリ故ニ本寮ニ
於テ許多ノ吏員ヲ登用シテ均シク稅務ヲ擔當セシメハ一ハ以

テ政府及ヒ人民ニ對スルノ義務ヲ知ラシムルニ足ルヘシ一ハ
以テ私曲奸計ヲ未然ニ防禦スルニ足ルヘシ果シテ如斯ク

ハ僅ニ不注意ノ為メニ生スル所ノ脱稅ノ額ハ實ニ尠少ナルヘ
シト綫陳シタルハ閣下ノ記憶スル所ナルヘシ

「アツセスト」
英國租稅ノ
雜稅ト唱ルカ
二字ヲ代用

趣ハ專ラ既往ノ事實ヲ詳記シ人々ヲシ
ルニ在ルヲ以テ他ノ著作評閱ノ體裁ニ
付スルヲ為サス然リト雖モ此一事ヲ以
キテ速了セザラン一ヲ冀望スルナリ
自國ノ税法ヲ了解セサル者甚ク多シト
テハ諸税ノ收入法ト收税官吏ノ職制トヲ
供ス

初年ヨリ今日ニ至ル迄毎年收入スル所ノ
沿革ヲ縷陳スルノ前ニ於テ先ク今日ノ
ラサル者アリ

三十一日ヲ以テ終ル一週會計年度ハ本
會ヲ要スヘキノ年ニシテ即チ余等ノ數年

アツセストト^レ稅收入法改正案ヲ實際ニ施行
シテ一タヒ其改正案ヲ實施スルニ及テヤ
テ冀望スル所ノ者ニ勝ルニ至レリ
ナル者ヲシテ本寮ノ管理ニ屬スル租稅ヲ
法ヲ廢止セラレン一ヲ冀望スルヤ久矣是
此等ノ人々ハ決シテ大藏省ノ利益ヲ計ル
定ノ旨趣ニ戾リ公然私利ヲ經營スルノ
シテ庶社ヲ知ラサルノ徒ナリ故ニ本寮ニ
用シテ均シク稅務ヲ擔當セシメハ一ハ以
スルノ義務ヲ知ラシムルニ足ルヘ一ハ
ニ防禦スルニ足ルヘシ果シテ如斯ク
ニ生スル所ノ脫稅ノ額ハ實ニ尠少ナルヘ
トノ記憶スル所ナルヘシ

アツセストトハ賦課ノ義ニシテ動詞上ノ形容詞ナリ今ヤ
英國租稅ノ一科目ヲ為ス恰モ本邦ニ於テ印稅ト云ヒ
雜稅ト唱ルカ如シ故ニ強テ譯語ヲ下サント欲セハ雜稅
ノ二字ヲ代用スルノ外他ニ妥當ノ譯語アルヲ知ラス

樽尾

然リト雖モ私利ノ一点ニ拘泥シテ從來ノ税法ヲ護美スル者アルニ際シ遽カニ以テ弊害ヲ除カントスルハ壓制政府ニ非サルヨリハ到底為シ得ヘカラサル者ナリ是故ニ千八百六十四年ニ於テハ税額ノ收入ノミヲ本憲ノ吏員ニ委ニテ欲シタレバ遂ニ其目的ヲ達スルヲ得サリシナリ

憶ニ方今ノ税法ヲ一般ニ採用スルニ至リシハ大ニ養犬免許税ノ功興テカアルカ如シ茲ニ其概略ヲ示サンニ從來免許税ヲ課スル養犬ノ數ハ四十萬頭ニ過キサリシカ僅ニ收税法ノ改正ニ因テ忽チ百萬頭ノ多キニ及ヘリ

千八百七十年第三月三十一日ヲ以テ終ル會計年度ノ歲入出豫算表ヲ以テ大蔵卿カ本憲ノ管理ニ屬スル税法ノ改正アラニ一ヲ建議シタル要件ハ即チ左ノ如シ

第一 一磅ニ付六邊尼ノ所得税ヲ減シテ五邊尼ト為ス事

第二 「アッセスト」税中許多ノ税率ヲ減シ第一月一日乃至十二月三十一日間ノ免許狀ヲ授与シテ之カ收税法ヲ簡易スル事

第三 所得税目中(一)二三(五)ノ部(五)ノ部ニ於テ政府ノ官吏ヲ除ク及ヒ地稅家稅等ハ會計年度ノ終季即チ第一月一日乃至第四月一日ノ間ニ於テ一時ニ其全額ヲ收入スル事

譯者曰所得税ヲ分テ(一)(二)(三)(四)(五)ノ五種トス其所謂(六)ハ公債証券ノ利息ニ課スルノ税ナリ本條中此一項ヲ掲ケサルヲ以テ茲ニ附言ス

第四 驛車稅痛車稅驛馬稅ヲ廢止スル事

第五 火災保險稅ヲ廢止スル事

第六 茶高免許稅ヲ廢止スル事

「アッセスト」税率ノ改正スヘキ者ハ即チ左ノ如シ

一磅一司令ノ僕稅ヲ減シテ十五司令ト為シ且十八歲未滿ノ

僕税ヲ廢止スル事

從來馬ヲ駕スルノ多クニ從テ收税セル馬車税ヲ減シテ二種

ト為シ四輪車ニハ二磅二司令ヲ課シ二輪車ニハ五司令ヲ

課スル事但シハ馬(日本馬)ノ如キ者ヲ云フヲ以テ運轉スル馬車ニシテ其重量五十四貫四百七十六匁ハ

分未滿ナレハニ輪車ノ税ニ均シカラシムヘシ

一磅一司令ノ馬税ヲ減シテ十司令六邊尼ト為ス事

徵脚本邦ノ家税ヲ賦課スルノ方法ヲ改正スル事

但方今ニ於テハ徵号税一磅一司令ヲ課シ若シ其徵号ヲ馬

車ニ画クハハ二磅二司令ヲ課セリ

馬高免許税ノ各地方ニ異ナル者ヲ減シテ十二磅十司令ノ均

税ト為ス事

僅ニ九百磅ノ收額アル漆髮税ヲ廢止スル事

英國ニ於テ貴族家臣ハ御者ヲシテ白粉ヲ以テ頭髮ヲ漆シメ以テ虚飾ヲ為シ凡ソ御者漆髮税トハ即チ此等ノ虚飾ヲ為ス者ニ課スルノ税ナリ

大蔵卿ハ前ノ改正ニ據テ驛馬税ハ十三万五千磅ヲ減シ驛車税

ハ四万七千磅庸車税ハ十一万一千磅即チ總計二十九万三千磅

ヲ減シアッセスト税ノ減額百十六万七千磅ヲ俟セ算スルハ

百四十六万磅ノ減差ヲ生スヘシト云ヘリ

然レ此等諸税ニ換ルニハ百十一万三千磅ノ免許税ヲ以テス

ルノ目的ナリシカ故ニ之ヲ兼除スレハ三十四万七千磅ノ減差ト

ナル而シテ火災保険税ノ廢額百万磅及ニ茶高免許税ノ廢額七

万三千磅モ亦此中ニ算入セサル可ラス

又大蔵卿ハ收税新法ヲ施行スルハ從來千八百七十年第四月

ヲ以テ終ル一季内ニ收入スヘキ税額ノ外所得税百八十万磅ト

地稅家稅九十五万磅トヲ得ヘク又新設ノ免許税ニ依テハ六十

万磅ヲ得ヘシト豫算セシカ故ニ其總額ハ三百三十五万磅ト成

ルヘシ

之ニ反シテ火災保險税ハ五十万磅 譯者曰火災保險税ノ廢額ハ百万磅ナレバ此時既ニ其半
 額ハ僅ニ五十万磅ニ過キスヲ減シ茶商免許税ノ廢額ハ七万三
 千磅ナルヲ以テ之ヲ兼除スレハ全ク三百三十七万七千磅増
 額ヲ得ヘキノ豫算ナリキ
 此歲大蔵卿ハ輸入貨物ノ入庫法ヲ改正シテ外國ヨリ輸入スル
 酒類ヲ國産税局ノ管理ニ属スル倉庫ニ運移スルヲ許可セリ
 此法タル當ニ稅務ノ為メノミナラス其人民ニ便益ヲ與フルヤ
 蓋シ斷少ニ非サルヘキナリ
 左ノ表ハ即チ過ル西會計年度間ニ收入シタル内國稅ノ總額ヲ
 示ス者ナリ

千八百六十八年
 千八百六十九年

第三月三十日ヲ以テ終會計年度間内國稅收入額一覽表

	千八百六十八年 磅	千八百六十九年 磅	增額 磅	減差 磅
國產稅	二〇、一七三、二八八	二〇、四五〇、三八六	二七七、〇九八	—
證印稅	九、四六一、〇一〇	九、二二七、九〇六	—	二三三、一〇四
地稅及 アッセス ト稅	三、四五〇、三一八	三、四八四、一六六	三三、八四八	—
所有稅	六、一八四、一六六	八、六二三、五〇七	二、四三九、三四一	—
總計	三九、二六八、七八二	四一、七八五、九六五	二、七五〇、二八七	二、三三一、〇四
			二、五一七、一八三磅	

蓋前年以降收稅額ノ増減スル所以ノ理由ハ備ニ本書中ニ闡味スル
ヲ以テ今ヤ筆ヲ擱クニ當リ國產稅ハ麥芽稅ノ為メニ増加シ印稅ハ
遺言稅遺物稅相續稅ト海上保險稅トニ依テ減シ所得稅ハ其率ヲ
重スルカ為メニ増加シタリトノ數言ヲ呈スルヲ以テ足レリトセサル
可ラス

千八百七十一年第二月

內國稅務理事官

署名

大藏理事官閣下

合衆
王國

內國稅年報編纂書

國產稅之部

第一編

國產稅ノ一部タル國產稅ヲ賦課スルノ事務ハ國產稅局檢査課

官吏ノ擔任スル所ナリ故ニ先ツ其事務ノ舉行ヲ便捷センカ為

メニ預シメ合衆王國ヲ數多ノ大區ニ分テ名ケテ收稅大區ト云

フ此大區ハ務メテ商賣ノ負數ト製造ノ多寡ニ隨テ分畫スルヲ

以テ或ハ二三ノ都府市邑ニ跨ル者ナキニ非ス而シテ各大區ノ

名稱ハ收稅總長ノ居住スヘキ著名ナル市府ノ稱ヲ假ルヲ恒ト

ス

各大區ニ收稅總長一名ヲ置キ以テ區内ノ稅務ヲ總管セシム之

ヲ地方在勤ノ收稅官吏中ノ最高ノ地位ヲ有スル者トス

各大區ヲ分テ中區ト為シ又之ヲ細分シテ二種ノ小區ト為ス其
 一ヲ徒行小區ト云ヒ其ニヲ騎行小區ト云フ
 中區ノ稅務ヲ管理スル者ヲ名ケテ收稅監督ト云フ其官等ハ收
 稅總長ニ亞ク次ニ二等ノ副監督アリ其一ハ徒行小區ヲ管掌シ
 其二ハ騎行小區ヲ管掌ス

蘇格蘭ニ於テハ市府互ニ懸隔シテ人烟稠密ナラス隨テ稅額ヲ
 收ムル極メテ僅少ナルノ地方アリ此等ノ地方ニ在テハ別ニ大
 區ヲ設ケスシテ之ニ代フルニ犯禁預防中區ヲ以テス故ニ此區
 ノ監督ハ當ニ收稅事務ヲ管掌スルノミナラス兼テ酒類ノ密釀
 ヲ抑壓スルノ責ニ任ス且該區ニハ本來ノ副監督ノ外偵察吏
 數實アリテ專ラ長官ヲ輔ケテ麥芽酒及ヒ酒精
 造ヲ抑止スルノ事務ニ任ス
 愛爾蘭ニ於テハ收稅巡查廢點以降其事務ハ普通巡查及ヒ國產

稅務擔當ノ吏員ニテ之ヲ施行セリ

近時ノ制法ニ據ルニ合衆王國ノ收稅區畫ハ即チ左ノ如シ

國名	收稅大區	收稅中區	犯禁預防中區	徒行小區	騎行小區
英倫及威勒士	六四	二八一		九〇五	七六二
蘇格蘭	一三	六三	九	三一三	八五
愛爾蘭	一四	五三		一四四	一七二
總計	九一	三九七	九	一、三六二	一、〇一九

譯者曰余曾テ英國ニ遊ヒ該國ノ稅法ヲ學フ時ニ收稅區域分
 畫法ニ至リ獨リ蘇格蘭ニ於テ犯禁預防中區ノ設アルヲ見テ
 竊ニ疑ナキ能ハス依テ之ヲ收稅吏員ニ質ス吏員曰抑モ蘇格
 蘭ノ國タル市府相懸隔シテ戸口稠密ナラス故ヲ以テ或ハ床
 下ノ地ヲ穿テ或ハ山野畦畝ノ間ニ潛匿シテ密ニ酒精ヲ蒸溜
 スル者蓋一ニシテ足ラス此ニ於テカ規察吏員ハ恒ニ望遠鏡

ヲ携テ各地ヲ徘徊シ以テ其密製ヲ抑止セシムルヲ務ム是レ此
區ノ設ナカルニカテサル所以ナリト

國產稅局監督課ノ吏員ハ競進當選ノ法ニ據テ進級シ其上級ノ
官ハ下級ノ官等ヨリ拔擢シテ之ニ充ルノ制タルヲ以テ新タニ
出仕ヲ命スル者ハ必ラス最下ノ等級ニ叙任スルヲ恒トス而シ
テ今マ其人選ハ大藏長官ノ命スル所タリ

新タニ出仕ヲ命スル者ハ年齢十九歳乃至二十五歳ニシテ家ニ
妻子ナク身体強壯ニシテ方正敏捷ナラサル可ラス又他人ニ負
債アル者ヲ許サス其學術ニ於テハ加減乘除及ヒ分數ノ算則ニ
熟達シ兼テ能筆ニシテ書取ヲ謬ラサル者ヲ以テ之ニ充ツ

倫敦府若クハ府外ノ四十里ノ内ニ住居スル人ニシテ此選ニ當
ル者ハ文官試業委員ノ前ニ於テ試験ヲ受クヘシ若シ府外四十
里ヲ離ル、片ハ該委員ハ試験ノ問題ヲ封緘シテ之ヲ大區ノ收

稅總長ニ遞送シ以テ該總長及ヒ書記官ノ前ニ於テ試験セシム故
ニ此問題ノ封皮被選者ヲ試験ノ席ニ臨ム後ニ非サレハ開緘ス
ルヲ得ス試験既ニ終レハ彼ノ問題ト答辨書ヲ試業委員ニ遞送
シ以テ及第スルヤ否ノ報ヲ送ツ若シ果シテ及第ノ報ヲ得タラ
シニハ本寮ニ於テハ直ニ收稅監督ニ屬シテ其指揮ヲ受クヘキ
ヲ命ス是ニ於テカ被選者ハ六週間收稅監督ニ屬シテ實際ノ事
務ニ従事シ其人タル能ク麥酒釀造及ヒ酒精蒸溜者ヲ監視スル
ニ適當ナル乎麥酒及ヒ酒精ノ量ヲ筆算尺度ニテ測量スルヲ得
ル乎六週間調査シタル顛末ハ詳ニ帳簿ニ登記シ他日之ニ據テ
收稅ノ額ヲ定ムルニ足ルヘキ乎ヲ監督及ヒ其屬官ニ於テ保証
スル片ハ再ヒ收稅總長ニ就テ試験ヲ受ケシメ果シテ其任ニ適
スルニ於テハ二級稅吏ニ命シテ委任狀ヲ付与ス
二級稅吏ハ收稅大區ニ屬シテ常務アル稅吏ノ疾病事故アル所

之ニ代理ス其俸給ハ一歳六十磅ニシテ税吏ニ代理スルハ別
ニ一日二司令ヲ増ス其上級缺員アルハ奉命ノ前後ニ隨ヒ一
級税吏ニ進轉ス

一級税吏ハ事務ノ繁劇ニ際シテ小區税吏ヲ補助シ其俸給ヲ一
歳九十五磅トス若シ上級缺員アルハ奉命先後ニ隨ヒ騎行税
吏ニ進轉ス

騎行税吏ハ人口稠密ナラサル地方ノ若干部内ニ在テ國産税品
ノ製造者及ヒ商賈ヲ監視スルヲ以テ恒ニ乗馬ヲ蓄養セサル可
ラス而シテ其主務タルヤ商賈ノ家屋ヲ巡回シテ製造ノ多寡ヲ
點驗シ之ヲ帳簿ニ登記シテ收税ノ額ヲ預定シ或ハ收税ノ期ニ
至レハ其税ヲ收入シテ之ヲ收税總長ニ申報シ或ハ又其管内ノ
國産税ヲ課スヘキ物品ノ製造免許狀ヲ有スル商賈ノ名簿ヲ製
シ之ニ課スヘキ税表ヲ併セテ收税總長ニ送呈スルニ在リ加之

此税吏ハ恒ニ一切ノ職務ニ関スル顛末ヲ帳簿ニ登記シテ長官ノ
驗査ヲ受ケサル可カラス其俸給ハ一歳百十磅ニメ別ニ乗馬
畜養費トシテ三十磅ヲ給ス若シ乗馬ヲ畜養スルニ足ラサルハ
旅費トシテ同一ノ金額ヲ増ス

騎行小區ニ勤仕スル既ニ一週歳ニ至レハ自ラ進級セラレシヲ
請願スルヲ得ルヲ以テ若シ平生ノ職務ニ関シテ異議ナキハ
預シメ其請願ノ趣旨ヲ簿冊ニ登記シ進級ノ順次ニ至ルヲ俟テ
始メテ一季間ノ帳簿ヲ出サシメ以テ之ヲ審驗ス若シ其帳簿記
スル所公正ニシテ疑フニ足ルヘキ者ナク管内商賈ヲ監視シ及ヒ
收税品ノ多寡ヲ算スル極メテ明亮ナルハ徒行税吏ノ缺員ア
ルニ隨ヒ直ニ進級セシム

徒行税吏ハ騎行税吏ニ比スレハ頗ル區域狹隘ニシテ人口稠密
ナルノ地方ヲ監視シ其職務タルヤ敢テ騎行税吏ト異ナル所ナ

ク而シテ其與ナル所ハ唯乘馬ヲ畜養スルヲ要セサルノミ其俸
給ハ一歳百二十磅ニシテ一歳毎ニ五磅ヲ増シ以テ百五十磅ニ
至ル此稅吏ハ收稅官ニ勤仕スル一七年ニシテ其間徒行小區
ノ事務ヲ擔當スル滿二年ニ至ラサレハ自ラ檢査官ニ進級セシ
テ請願スルヲ得ス若シ其期ニ至リ請願スル所ニ於テ異議ナキ
片ハ預シメ其趣旨ヲ簿冊ニ登記スト雖モ直ニ之ヲ拔擢スルニ
非ス是レ他ナシ本寮ニ於テハ嘗テ進級ノ請願ヲ為シタル者ノ姓
名ヲ順ヲ逐テ名簿ニ登記シ其名簿中ニ在ル所ノ者ハ悉ク奉テ
進級ノ可否ヲ審議シ而シテ後其可トスル者ハ名簿ノ順次ニ隨
テ進級セシムレハナリ

徒行稅吏ノ進級ニ於ケルマ先ツ其大區ノ收稅總長ノ前ニ於テ
書取及ヒ加減乘除ノ試驗ヲ受ケ其式ニ中レハ再ヒ倫敦本寮監
督司檢長ノ前ニ於テ試驗ヲ受クヘキヲ命ス是ニ於テ司檢長ハ
能ク國語ノ文法ニ通スル乎國產稅法ノ概略ヲ了得スル乎將
國產稅法ヲ遵守スヘキ商賈ノ狀況ハ如何ナル乎本寮往復ノ通
信公文ヲ書スルニ其書法正シクシテ且速ナル乎普通ノ分數及
ヒ奇零小數ヲ算シ得ル乎平均算部分算ヲ善クスル乎或ハ複記
法ヲ解得スル乎ヲ試驗シテ其應答書ヲ本寮ニ呈ス若シ試驗ノ
結果満足ナル片ハ再ヒ一季間ノ帳簿ヲ出サシメテ之ヲ精査シ其
誤漏違算ナキヲ見テ始メテ檢査官ニ進級セシム

檢査官ハ帝ニ稅吏ノ帳簿ヲ檢査スルカ為メノミナラス兼テ收稅
監督ノ職務ニ通曉センカ為メニ本寮ニ勤仕シ收稅監督ノ疾病事故
アル片地方ニ派出シテ之ニ代理ス其俸ハ一歳百七十磅ニシテ其地
ニ派出スル時ニ於テハ毎年五十磅ノ増給ヲ受ク若シ上級欠負ア
ル片ハ先任ノ順次ヲ以テ收稅監督ニ進級ス

收稅監督ハ若干ノ徒行小區ト騎行小區ヲ含メル收稅中區ヲ管

理シ其職務タルヤ管内ノ商賈ヲ監視スルノミナラス兼テ稅吏ノ
行務ヲ檢案視察スルニ在リ又管内ノ事務ニ関シテハ本寮及ヒ
各課ノ長官ニ申報通信シ其擔當スル所ノ事務ハ細大トナク詳
カニ日記ニ登錄シテ收稅總長ノ檢査ヲ受ケ該總長ハ期ヲ定メ
テ之ヲ本寮ニ開申スルノ制タルヲ以テ收稅監督ノ職務タル實ニ重
大ニシテ且繁劇ナル者ト云フヘシ

收稅監督ノ俸給ハ騎行中區ニ在テハ一歲二百十磅ニシテ歲ニ
五磅ヲ増シ以テ二百三十磅ニ至ル又騎行中區ハ廣袤數里ニ跨
リ乘馬ヲ要スルノ場合アルヲ以テ別ニ乘馬畜養費トシテ一歲
四十五磅ヲ増給ス若シ乘馬ヲ要セサル片ハ同額ノ巡回旅費ヲ給
其徒行大區ニ在テハ其俸給一歲二百三十磅ニシテ歲ニ五磅ヲ
増シ以テ二百五十磅ニ至ル

收稅監督ハ奉仕滿三年ニ至リ司檢監督ニ進級セラレニテ詩

願スルヲ得ルト雖モ之ヲ命スルハ先任ノ順次ニ因ラスシテ一
ニ本寮收稅委員ノ選擇スル所ニ任ズ蓋シ其試驗ノ法タルヤ同
時ニ司檢監督ノ^員缺員アルニ臨ミ數名ノ收稅監督ヲ選抜シテ
其區ノ收稅總長ノ前ニ於テ國產稅法或ハ其行務ニ関スル條目
ノ問題ヲ設ケテ之ニ答議案ヲ作ラシム若シ其試驗ノ満足ナル
トシ本寮ニ於テ確認スル片ハ更ニ倫敦本寮ニ出頭スヘキヲ命
ズ是ニ於テカ本寮ニ於テハ一般ノ收稅法ニ関スル問題ヲ設ケ
テ答議案ヲ作ラシメ以テ其技倆ノ適否ヲ試ム若シ果シテ其式
ニ中レハ更ニ六箇月間ノ帳簿ヲ出サシメ以テ之ヲ審査ス而
シテ其帳簿ノ審査ハ獨リ自己ノ管理スル所ニ止ルノミナラス
猶延テ屬官ノ帳簿ニ及ホス是レ他ニ非ス屬官ノ過誤失錯ハ收
稅監督自ら其責ニ任セサル可ラサレハナリ既ニ斯ノ如ク試驗
審査ヲ経レハ其願末ヲ本寮ニ具申シ其准許ヲ得テ始メテ司檢

監督ニ進級セシム

司檢監督ハ一定ノ收稅區ヲ管領スルニ非ス或ハ倫敦本窓ニ在
テ國產稅法ノ實踐ト監督課ノ行務ニ係ハル疑難ノ條件ヲ具狀
シ或ハ地方ニ派出シテ收稅官及ヒ商賈ニ係ハル特殊ノ事件ヲ
審議シ兼テ收稅監督及ヒ稅吏ノ行務ヲ監察シテ其枉法ヲ預防
スルヲ掌ル若シ收稅總長疾病事故アルキハ其區ニ出張シテ之
ニ代理ス

司檢監督ヲ分ツテ三級トス其一級ハ本窓ニ勤仕シ其二級三級
ハ數名ヲ除クノ外悉ク地方ニ派出シテ各區ノ稅務ヲ監察ス而
シテ其等級及ヒ俸給ハ即チ左ノ如シ

一級司檢監督長

一名

俸給八百磅ニシテ歳ニ二十五磅ヲ増シ以テ九百磅ニ至ル

一級司檢監督

一名

俸給五百五十磅ニシテ歳ニ十磅ヲ増シ以テ六百磅ニ至ル

二級司檢監督長

一名

俸給四百磅

二級司檢監督長

十三名

俸給三百五十磅

三級司檢監督

十四名

俸給三百磅

一級司檢監督ハ精選枚擢シテ之ニ命スト雖モ其三級ヨリ二級ニ進轉セシムルニハ必ラス先任ノ順次ヲ以テス若シ收稅總長缺負アル片ハ二級司檢監督ヲ以テ之ニ充ツ

收稅總長ハ收稅中區及ヒ騎行徒行小區ヲ含メル大區ノ長官ニシテ其職務タルヤ管内ノ國產稅ヲ收入シ及ヒ其收入ノ額ニ就テ一切ノ責ニ任スルニ在リ但シ英倫ニ於テハ所得稅及ヒアツセスト稅ヲ收入シ愛爾蘭ニ於テハ所得稅及ヒ帝室所有地ノ借料ヲ收入シテ均シク其責ニ任ス

收稅總長ハ此等ノ税金ヲ收入センカ為メニ一歳ノ内八回收稅監督及ヒ稅吏ヲ率テ区内ノ各市場ニ出張スルヲ以テ全區ノ商賈等ハ必ス此地ニ會シテ納稅セサル可ラス其地稅「アツセスト」稅及ヒ所得稅ヲ收入スルノ場合ニ於テハ租稅監督原語ソルウエイヤ、オア、タクスト云フ即チ地稅所得稅、家稅等ヲ管理スルノ稅官ナリ地稅所得稅ノ部ヲ管スヘシ及ヒ地方收稅者所得稅

稅及ヒ地稅ノ收入者ハ地方ノ邑民先ツ之ヲ受領シテ收稅總長ニ之ヲ送奉ス故ニ政府ノ官吏ニ非ス
交付ス

抑モ收稅總長ノ各市場ニ出張スルヤ當ニ税金ヲ受領センカ為メノミニ非ス兼テ收稅監督及ヒ稅吏ノ日記ヲ調査シテ不正ノ跡ナキヤ否ヲ審察シ之ヲ本寮ニ具狀スルニ在リ其各市場ニ出張セサル時ニ在テハ或ハ計算簿及ヒ申報書ヲ編製シテ之ヲ本寮ニ呈シ或ハ管内收稅官ノ行務ヲ監察シ又或ハ司檢監督ニ均シキ事務ヲ擔當スルノ時アリ

收稅總長ノ俸給ハ收稅大區ノ等級ニ隨テ差等アリ即チ左ニ掲クル所ノ如シ

一等大區

即チ都伯林愛爾蘭首府以丁堡蘇格蘭首府格勒斯高及ヒ立弗布立收稅總長各々歳俸七百磅ニシテ歳ニ二十磅ヲ増シ以テ八百磅ニ

至ル

二等大區 十四區

此區ノ收稅總長ハ各々歳俸五百五十磅ニシテ歳ニ二十磅ヲ増シ以テ六百磅ニ至ル

三等大區 七十三區

此區ノ收稅總長ハ各々歳俸四百磅ニシテ歳ニ十磅ヲ増シ以テ五百磅ニ至ル

收稅總長ノ書記ハ其長官ノ簿書及ヒ出納帳ヲ保管シテ之ニ税金ノ收入及ヒ納付高ヲ登録シ或ハ定期申報書ノ文案ヲ起草スルヲ掌ル其長官ノ各市場ニ出張スル時ニ於テハ之ニ隨行シテ自ラ税金ヲ受領スルヲアリ

凡ニ級稅吏以上ノ收稅官吏タル者ハ收稅總長ノ書記ニ選舉セラルハシ得ヘク而シテ總長ハ之ヲ選舉シテ本寮ニ上請スルノ

特權ヲ有ス但之ヲ命スルニハ一般貿易上ニ行ハル、複記法ノ

体裁ヲ不~~解~~スルヤ否ヲ試験シ其式ニ中レハ試補ノ職ヲ授ケテ

三箇月間總長ニ屬シ以テ事務ヲ管掌セシム若シ其期ノ終ルニ

臨シ總長其任ニ堪ルコトヲ確認スル片ハ即チ本寮ニ上清ニテ書

記トナス

收稅大區中書記一名ヲ置ク所ニ於テハ其歳俸百四十磅ニシテ

歳ニ五磅ヲ増シ以テ百八十磅ニ至ル其二名ヲ置ク所ニ於テハ

一級書記ノ歳俸百四十磅ニシテ歳ニ五磅ヲ増シ以テ百八十磅

ニ至リ其二級ハ歳俸百十磅ニシテ歳ニ五磅ヲ増シ以テ百四十

磅ニ至ル其三名ヲ置ク所ニ於テハ一級書記ノ歳俸百八十磅ニ

シテ歳ニ五磅ヲ増シ以テ二百二十磅ニ至ル其二級ハ歳俸百四

十磅ニシテ歳ニ五磅ヲ増シ以テ百八十磅ニ至ル其三級ハ百十

磅ニシテ歳ニ五磅ヲ増シ以テ百四十磅ニ至ル

検査及び計算ノ方法

凡ソ各種ノ國産税ヲ計算賦課スルノ方法ハ明クニ成法ノ指示
スル所ニシテ各局ノ長官本寮ノ命ヲ奉シテ時々起草スル所ノ
指令例規ニ遵ヒ地方在勤ノ收税官吏之ヲ實際ニ施行ス

開業願書

各商賈ノ國産税ヲ課スヘキ物品ヲ製造セント欲ス
ルヤ必ラス先ツ小區ノ收税官吏ニ其製造ノ場所及ヒ為メニ使
用スル所ノ器具ノ状ヲ詳記シタル書票ヲ呈シ且其場所及ヒ器
具等ニハ各々記号番号ヲ付シテ他ト混淆セサランヲ要ス此書
票シ名ケテ開業願書ト云フ此ニ於テカ收税官吏ハ時々其場所
ニ至リ製造ノ状ヲ監視スルヲ得ヘシ

製造期報告書

各商賈カ國産税ヲ課スヘキ物品ノ製造ニ於ケル
例ヘハ穀物ヲ水ニ浸シテ麥芽ヲ製シ或ハ發酵ノ新酒ヲ蒸餾室ニ
搬送スル等其製造ニ於テ最モ緊要ナル時ニハ其品質ニ随ヒ預

シメ一時或ハ一日若クハ六日ヲ期シテ其趣ヲ收税吏負ニ報告
セサル可ラス抑此報告書ヲ呈セシムルノ趣旨タルヤ收税吏負
シテ物品ノ製造未タ終ラサルノ前ニ於テスル乎或ハ既ニ製造
スルノ後ニ於テ自ラ監視シテ其量ヲ測リ以テ他日收入スヘ
キ税額ヲ定メシメシカ為ナリ而シテ此際ノ監視ハ脱税ノ惡弊
ヲ預防スル為メニ最モ緊要ナリトス

收税官吏之検査

收税吏負ハ前條ノ報告書ヲ得テ監視検査ス
ルノミナラス亦脱税ノ惡弊ヲ未然ニ防カンカ為メニ賦税品製
造ノ際ニ於テスルト否トヲ問ハス一定ノ度数ニ超サレハ臨時
巡回監視スルヲ得ヘシ但此際ニ於テハ本寮ノ指令ニ遵ヒ恒ニ
製造品ノ貯蔵及ヒ使用ノ器具ニ注意シ其製造中ニ在テハ製造
ノ状ヲ監視スルヲ緊要ナリトス又或ハ賦税品ノ輕重多寡ヲ測
度シテ之ヲ自己ノ帳簿ニ登記シ兼テ商賈ノ家ニ備具スル所ノ

「スベ」レメシト稱スル帳簿ニ臨監ノ時期ト檢査ノ顛末ヲ概記
レ以テ巡回ノ證憑ト為サ、ル可カラス
斯ノ如ク賦稅品ノ輕重多寡ヲ測度シタランニハ收稅監母ノ記
スル所ト共下官ノ載スル所トヲ對照加算シ之ヲ帳簿ニ登錄シ
テ以テ收稅ノ額ヲ定メ一定ノ期日ニ於テ納稅スヘキ旨ヲ商賈
ニ書送ス

納稅之規則

凡リ商賈ノ納稅ニ於ケル收稅大區ニ在テ其業
ヲ営ム所ノ市場若クハ之ニ接近スルノ市場ノ外ハ納稅ノ為メ
ニ他ノ遠隔ナル市場ニ到ルヲ要セス又收稅吏負ノ算定シタル
稅金ハ成法ヲ以テ確定シ或ハ收稅委員力稅金收入ニ付妨害ア
ランコトヲ察シテ定ムル所ノ期日ニ於テ皆納セサル可ラス若シ
納稅淹滯ノ事アル所ハ必ス其罰ヲ受クヘシ故ニ收稅總長ハ此
法則ヲ實踐セシメシカ為メ一歲ニシテ八回即チ一季ノ内六

七週間ヲ隔テ、二回自ラ管理スル所ノ大區ノ各市場ニ出張シ
テ納稅金ヲ受領ス之ヲ名ケテ收稅巡回ト云フ蓋シ收稅巡回ノ
期ハ賦稅額算定期日ニ隨テ遲速アリト雖モ概ネ十日若クハ
十二日後ノ月曜日ニ始ルヲ恒トス而シテ一週會計年度ハ第三
月三十一日ヲ以テ終リ第二、第四、第六、第八ノ賦稅額算定期日ハ
各、六月三十一日九月三十日十二月三十一日三月三十一日ヲ
以テ終ル但其間ノ算定期日ハ毎年本寮ノ命令ニ依テ決定スト
雖モ概ネ一季間ノ半ニ終ルヲ恒トス

賦稅額照查單

收稅吏負ハ賦稅額算定期日ノ終リニ於テ管

内商賈ニ賦課スヘキ稅額ヲ精算シテ自己ノ帳簿ニ登記スルノ
ミナラス兼テ賦稅額照查單ト名クル者ニ謄寫シテ之ニ捺印ス
此證書ハ納稅スヘキ商賈ノ名ニ對シテ稅額ヲ記シ騎行徒行ノ
收稅小區コトニ之カ總計ヲ付ス而シテ其稅額ハ必ス數字ト國

語ノ西體ヲ以テ記セサル可ラス

收税監督ハ此證書ヲ前ノ帳簿ニ對比シ果シテ差異ナキヲ確認
スル片ハ之ニ連印シ以テ本寮ノ司計長ニ逋送ス是ニ於テカ此
證書ハ本寮司計長ノ手ニ在テ收税總長カ納付スル所ノ納税金
ノ原計ト為リ以テ其納付金ノ皆濟不足ヲ算定スルノ證憑タル
ヲ得ヘシ

要計簿上納帳及ヒ免許税帳一收税吏負ハ賦税額照査單ヲ編
製スルノ後單内記スル所ノ各目即チ賦税品ノ全計及ヒ賦税額
算定期日内ニ算定シタル税額ヲ要計簿ト名クル帳簿ニ謄寫シ
又別ニ行ヲ畫シテ收税總長々次ノ收税巡回ニ於テ收入スヘキ税
額ト麥芽製造者ノ場合ニ於テハ賦税ノ額既ニ定ルモ納税ノ期
未タ至ラサル者トシ概記シテ之ニ捺印シ以テ收税監督ニ送達
ス收税監督ハ之ヲ調査シ其誤謬ナキヲ確認スレハ即チ連印シテ

之ヲ收税總長ニ逋送ス且收税吏負ハ上納帳原語ヲ「ベイリス」ト云フ即チ上納帳

ノ義ナリ蓋シ免許税帳トノ區別ニ至テハ未タ之ヲ詳スル能ハス及ヒ免許税帳ニ免許人ノ姓名

賦税ノ金額免許ノ期既ニ盡キ更ニ再願セント欲スル者ノ姓名

職業及ヒ其住所免許状ヲ交付スヘキ期日及ヒ為メニ納ムヘキ

税額等ヲ記シ之ニ捺印シテ收税監督ニ送達ス收税監督ハ即チ

調査連印シテ之ヲ收税總長ニ逋送ス

總長附屬書記ハ前ノ要計簿ニ據リ各商賈ノ姓名トシテヨリ收入

スヘキ税額トシテ會計原簿ニ謄録シテ之ヲ總長ニ呈ス是ニ於テ

カ總長ハ監督及ヒ吏負ト共ニ收税巡回ヲ為スニ至ル蓋シ總長

ノ收税金ノ處分ニ於ケル現時各商賈ノ收納スル者ハ之ヲ原簿

ニ登録シテ收入金ト為スト雖モ納税定期ニ至テ納ラサル者ハ

之ヲ逋負金トシ其納税ノ延期ヲ請ヒ成法ノ明許スル期日内ニ

在ル者ハ未納金トシテ共ニ之ヲ殊別ス

毎週小計簿 收税總長ハ一週間ヲ終ルコトニ小計簿ヲ製シ
 テ之ヲ本署ニ逋送ス此帳簿ハ即チ其一週間ニ收入シタル税額
 ノ要計ヲ示ス者ニシテ收税地ノ名称收税吏員カ算定スル所ノ
 賦税額免許税收入額等ヲ其一方ニ登記シ收税監督及ヒ吏員ハ
 必ス之ニ証印セサル可ラス若シ總長ノ收税巡面ニ當リ其地ニ
 派出ス可ラサル片ハ監督ヲシテ別ニ總長ノ小計簿ニ均シキ帳
 簿ヲ製シ之ニ管内即チ中區ノ免許税及ヒ其他ノ為メニ收入スル金
 額ノ總計ヲ記シテ直接ニ本署ノ司計長ニ逋送セシム是總長ノ
 逋送スル所ノ小計簿ニ對照シテ其謬ナカラシク要スルカ為
 メナリ又總長ノ小計簿ノ一方ニ於テハ一週間ノ納付金及ヒ支
 消金ノ額ヲ記シ而シテ此納付金等ハ其日付及ヒ金額ニ於テハ
 必ス收税巡面ノ終ニ臨ミ總長カ逋送スル所ノ帳簿ニ符合セサ
 ル可ラス

收税總長ハ毎土曜日ニ於テ五十磅以下ノ僅額ヲ除ク外ハ總テ
 自ラ收入スル所ノ金額ヲ納付セサル可ラス但官吏ノ俸給ヲ支
 給スル際ニ於テハ自ラ其若干ヲ保持スルモ妨ケナシトス蓋
 シ納付金ヲ逋送スルノ法タルヤ大不列顛即チ英倫及ヒ
 蘇格蘭ノ二國ノ總長
 ハ英倫銀行ノ支店ノ領收證ヲ以テスルカ或ハ地方銀行ヨリ倫
 敦ニ在ル支店ニ宛タル為換証書英倫ニ於テハ十日後請取獲
 格蘭ニ於テハ十一日後受取ヲ以テ本署ノ出納長官ニ送付シ該
 長官ハ其証書ヲ英倫銀行ニ下シテ現貨ニ交換セシメ而シテ後
 其金額ヲ該銀行内ニ備フル出納長官ノ會計簿中ニ記シテ納付
 金ト為シ次ニ之ヲ他ノ納付金ト為シ大藏省ノ會計簿ニ移シテ
 本省ノ收入金ト為ス
 又愛爾蘭ノ收税總長ハ其納付金ヲ愛爾蘭銀行ニ下付スルカ或
 ハ地方ノ支店ニ下付シテ都伯林愛爾蘭
 首府ノ本店ニ送ラシメ而シ

テ後ニ之ヲ大蔵者ニ納付ス

收税總長カ收税巡回ニ於テ毎日收入シテ小計簿ニ登記スル所ノ者ヲシテ一層明瞭ナラシメシメシカ為メニ殊ニ吏員ニ命ジテ自己ノ検査簿ノ終ニ於テ總長カ一日間ニ收入セシ所ノ税金及ビ納税シタル商賈ノ姓名ヲ記セル略表ト各種ノ免許税ノ為メニ收入シタル税金表ヲ類別ニ随テ調製貼付シテ之ニ捺印シ且其細目ニ自己ノ小計簿ニ謄寫セシム故ニ此諸表ハ一閱シテ該吏員ノ賦税金ニ對シテ收税總長カ責任トスル所ハ幾許ナルヤヲ知ルニ便ナル者ト云フヘシ

又收税吏員ハ賦税額照査單ニ記シタル税金ノ滿一年ヲ経テ納ラサル者アレハ別ニ略表ヲ製シテ其金額ト商賈ノ姓名トヲ記シ未納税表ヲ併セテ之ヲ検査簿ノ終ニ貼付ス之ヲ名ケテ逋負金年表ト云フ蓋シ此表ハ收税巡回ニ於テ總長及ビ監督ノ檢

閱シテ各々連印スル者ナリ

逋負金 收税總長ハ納税期日ヲ終リ未納金アルハ本署ノ指令ヲ遵守シテ直ニ之ヲ回收スヘキ處分ヲ施シ且其未納金アル所以ノ原由ト為メニ施シタル處分ノ方法トヲ詳記シテ本署ニ開申セサル可ラス

〔免許状免許税照査單免許税原簿〕 免許状ヲ得テ開業スヘキ商賈カ其業ヲ営マント欲シテ開業願書ヲ呈スルヤ本地ノ收税吏員ハ其要略ヲ検査簿ニ謄録シ次ノ收税巡回ニ於テ免許税金ヲ上納スヘキヲ命ス既ニ其税金ヲ上納スレハ為メニ區畫シタル検査簿ノ前葉ニ於テ納税者ノ姓名納税金額收入ノ期日及ビ前ニ記シタル開業願書ノ要略ヲ登録ス又賦税額算定期ノ終ニ於テハ税率ト共ニ各種ノ免許税ノ数ト其期ノ終ニ迄ニ收税總長收入シタル税金ノ額トヲ検査簿ニ登記シ次ニ其細目ヲ收

稅監督ノ調整スル所ノ免許稅照查單ニ謄寫シ以テ其謄寫ナキヲ登センカ為メニ之ニ捺印ス
收稅監督ハ賦稅額算定期ノ終ル毎ニ其管内ニ於テ既ニ稅ヲ收メテ交付シタル各種ノ免許狀ヲ書票ニ記載シテ之ヲ收稅總長ニ送付ス又收稅監督ハ既ニ吏負ニテ調製シ自ラ捺印シタル同期間ノ免許稅照查單ニ管内中區ノ總計ヲ付シ之ニ捺印シテ他ノ照查單ト共ニ本署ノ司計長ニ送付シ以テ收稅總長カ收入シタル稅額ノ憑證ト為ス
收稅總長ハ免許稅原簿ヲ備ヘ之ニ免許狀ノ種類及ヒ商賈ノ姓名ト始メテ其免許狀ヲ授與シ或ハ復授シタル期日及ヒ其終期或ハ之カ為メニ收入シタル稅額等ヲ詳記ス
近時各大區ノ免許稅及ヒ其他ノ諸稅ニ關スル事務ヲシテ高一層ノ精密ヲ加ヘシメシカ為メニ左ノ規則ヲ設ケタリ

收稅總長ハ管内ニ於テ店舖若クハ住居ヲ定メサル羅賣者ノ免許狀并ニ狩獵免許ノ為メニ收入シタル稅金ヲ上帳帳ニ登錄シ且自ラ住スル所ノ小區ノ吏負ヲシテ檢査簿及ヒ賦稅額照查單ニ記入セシメサル可ラス而シテ收稅監督ハ賦稅額算定期ノ終ル毎ニ吏負ノ記入シタル簿冊ト總長ノ授與セシ免許狀トヲ比較シテ其檢査ノ時日ト自己ノ姓名トヲ免許狀ノ裏面ニ記載スヘシ
此他ノ免許狀ノ為メニ收入シタル稅金ハ總テ其高賈ノ營業セシ區内ノ吏負ノ檢査簿及ヒ賦稅額照查單ニ記入セサル可ラス
收稅總長ハ免許狀及ヒ其他ノ賦稅ノ為メニ定期ノ收稅巡回外ニ於テ稅金ヲ收入スルアラハ之ヲ無証收入金トシテ毎週小計簿ニ登錄シ且一週間及ヒ賦稅算定期日ノ終ル毎ニ自ラ住居セシ區内ノ外ハ各區ノ吏負ニ各商賈ノ姓名營業場所免許狀

種類及ヒ既ニ收入シタル税金ノ額等ヲ記セル書票ヲ通送セ
 サル可ラス
 收税吏負ム前ノ書票ヲ領收スルノ後其各自ヲ検査簿ノ初葉ニ
 謄寫シ且其書票ニ自己ノ姓名ヲ記シテ之ヲ收税監督ニ通送ス
 ヘシ但收税總長ノ住居セル区内ノ吏負ハ賦税額算定期日ノ終
 リ若クハ殊ニ總長ノ指示スル期日ニ於テ總長ノ官衙ニ出頭シ
 小計簿ニ就テ自己ノ検査簿ニ謄寫シ後ニ之ヲ賦税額照査單ニ
 記入セサル可ラス

國產稅收入額一覽表

	千八百六十八年 第三月三十一日ヲ以テ 終一週會計年度	千八百六十九年 第三月三十一日ヲ以テ終 一週會計年度	增額	減差
酒 精	一〇、五一〇、五三〇	一〇、五五六、二一九	四四、六八九	
麥 芽	六、三〇、二四一八	六、五二七、七〇八	二二五、二九〇	
備 車	一〇、二、四一六	九九、〇三一		三、三八五
驛 車	三五、五五六	三六、四八〇	九二四	
鍊 道	四八六、一四二	四九九、二九七	一三、一五五	
免許狀	二、六四〇、二三八	二、六三六、二〇六		四〇、三二
競馬用馬	九、二六三	九、七四八	四八五	
擅古津	二一、六〇八	一五、九一〇		五、六九八

英產砂糖	英產糖酒	總計
七四七	六三、三七。	二、一七三、二八八
六、三四。	六、三四。	二、四一五、三八六
五、五九三	七七	二九〇、二一三
.....	一三、一一五
前年 = 超過高		
二七七、〇九八磅		

